

PALTEK

(証券コード:7587)

2016年12月期 第1四半期
決算説明資料

2016.5.9 (月)

アジェンダ

- ① 2016年12月期 第1四半期
業績結果
- ② 2016年12月期 業績予想

1

2016年12月期 第1四半期 業績結果

連結業績結果

(百万円)	2015年第1四半期		2016年第1四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	6,508	100.0%	9,431	100.0%	2,922	44.9%
売上総利益	1,145	17.6%	884	9.4%	△260	△22.8%
販管費	686	10.5%	758	8.0%	72	10.5%
営業利益	459	7.1%	126	1.3%	△332	△72.5%
経常利益	450	6.9%	124	1.3%	△326	△72.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	290	4.5%	69	0.7%	△220	△76.1%
1株当たり四半期純利益	25.89円	—	6.34円	—	△19.55円	△75.5%

主な増減要因

- 売上高の増加は、半導体事業の増加による
- 売上総利益の減少は、ドル円相場が急速に円高に進行したため、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が減少したことなどによる
- 販管費の増加は、主に人員の増加による

(百万円)	2015年第1四半期		2016年第1四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	6,001	92.2%	8,937	94.8%	2,935	48.9%
デ ザ イ ン ス サ ー ビ ス	449	6.9%	444	4.7%	△5	△1.2%
そ の 他	57	0.9%	49	0.5%	△7	△12.7%
売 上 高 合 計	6,508	100.0%	9,431	100.0%	2,922	44.9%

主な増減要因

- 半導体事業の増加は、FPGAが新規顧客向けに増加したこと、およびメモリ製品が海外メーカーに大幅に増加したことによる

■ 売上総利益率の低下は、以下の2つが要因

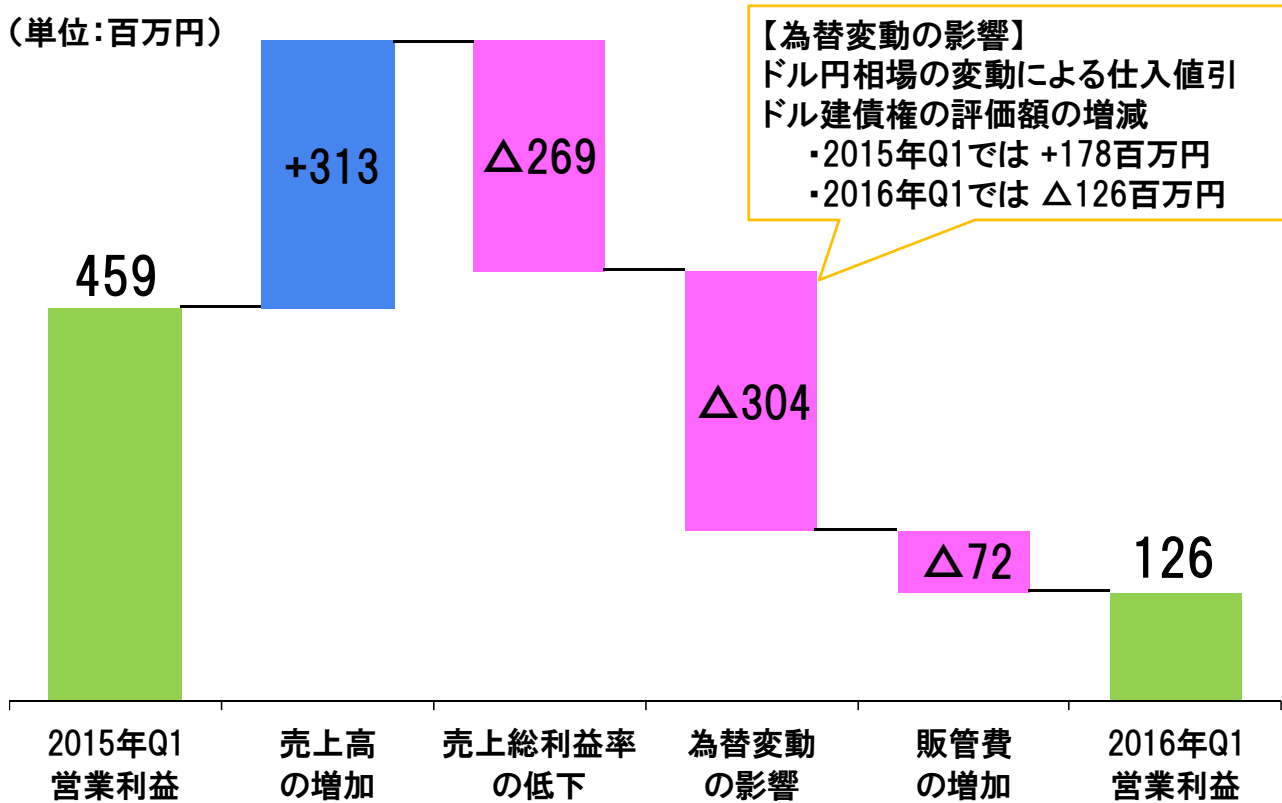
- 半導体事業において、売上総利益率の低い案件の売上高が大幅に増加
- ドル円相場の急速な円高進行により、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の減少したため、売上原価が増加
そのため、2016年第1四半期の売上総利益は126百万円減少
(2015年第1四半期では、円安基調のため178百万円増加していた)

(※仕入値引ドル建債権の説明は、本資料の参考資料に記載)

(百万円)	2015年第1四半期		2016年第1四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売 上 総 利 益	1,145	17.6%	884	9.4%
(うち為替の影響額)	178	2.7%	△126	△1.3%
売 上 総 利 益 (為替の影響を排除)	967	14.9%	1,011	10.7%

営業利益の増減分析

(単位:百万円)



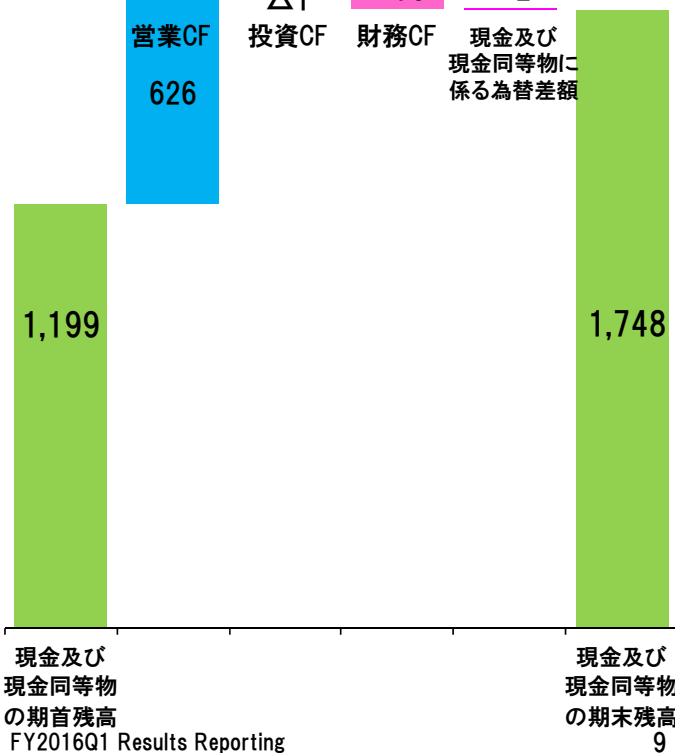
【為替変動の影響】
 ドル円相場の変動による仕入値引
 ドル建債権の評価額の増減
 ・2015年Q1では +178百万円
 ・2016年Q1では △126百万円

連結貸借対照表の状況

		(百万円)	2015.12末	2016.3末	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金		1,199	1,748	548	
	売上債権		7,367	6,368	△998	債権の回収が進んだため
	商品		3,918	4,943	1,025	売上水準が拡大しているため
	その他流動資産		2,988	2,683	△304	未入金等が減少したため
	固定資産		504	488	△16	
資産合計			15,977	16,232	254	
負債純資産内訳	仕入債務		1,047	1,472	424	売上水準拡大に伴い仕入れを増加させたため
	短期借入金		4,130	4,220	90	
	その他流動負債		1,468	1,311	△156	
	固定負債		283	275	△7	
	純資産		9,048	8,952	△95	
負債・純資産合計			15,977	16,232	254	

連結キャッシュ・フローの状況

2016年第1四半期のキャッシュフローの動き
(百万円)



(百万円)	2015年 第1四半期	2016年 第1四半期
現金及び現金同等物の期首残高	2,058	1,199
営業CF	△879	626
投資CF	△11	△1
財務CF	724	△73
現金及び現金同等物の期末残高	1,894	1,748

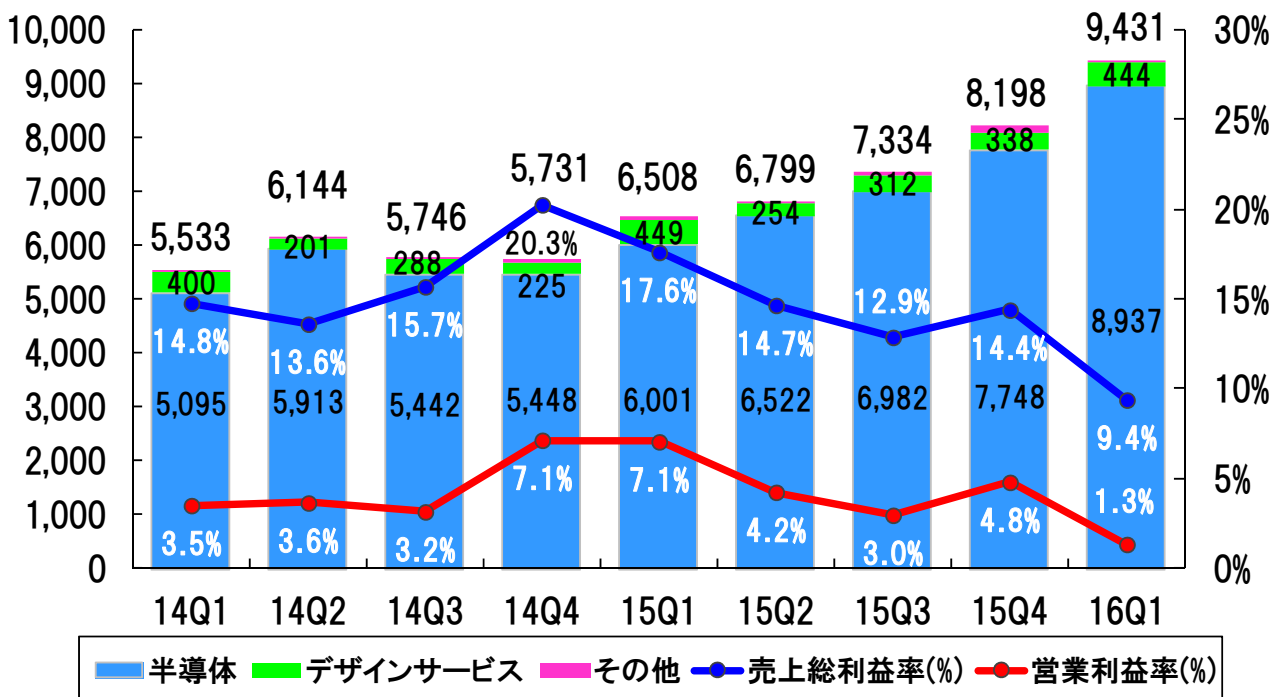
2016年第1四半期のキャッシュフローの動き

- 営業CF: たな卸資産が増加した一方で、売上債権、未収入金が減少したこと、仕入債務が増加したこと等により収入
- 投資CF: 有形固定資産および無形固定資産を取得したこと等により支出
- 財務CF: 借入れを実施した一方で、配当金の支払いを実施したこと等により収入

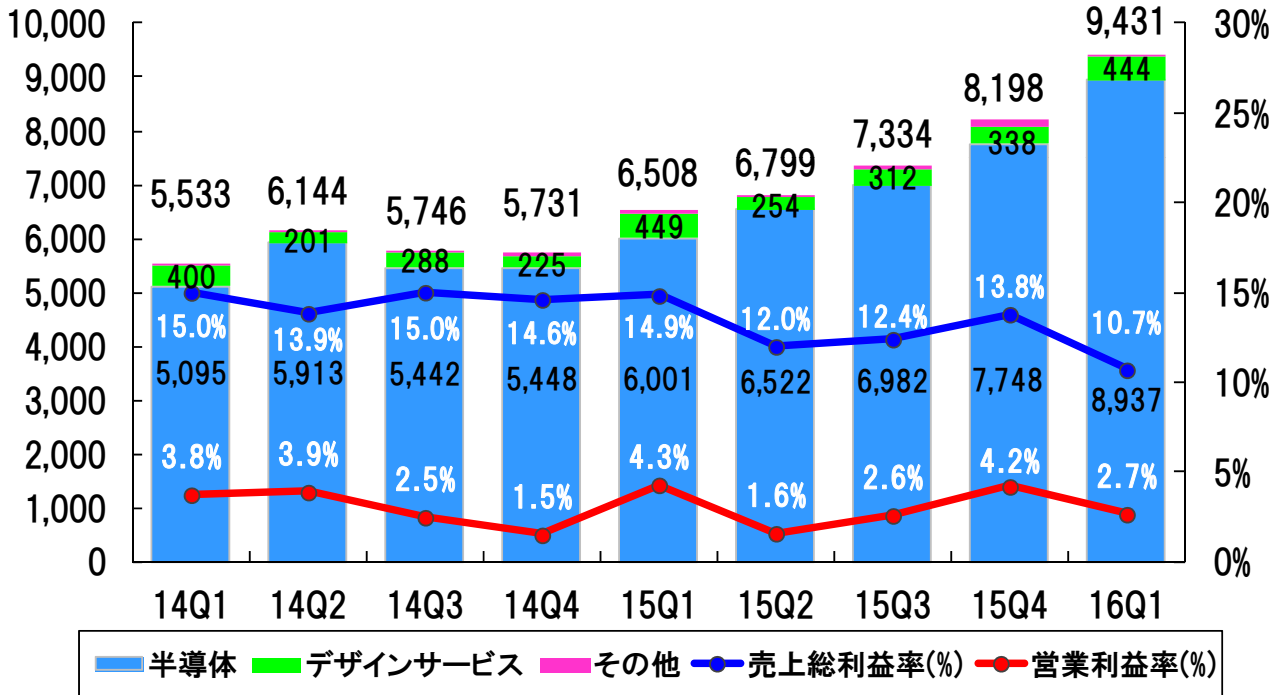
© 2016 PALTEK Corporation. All rights reserved.

連結業績の四半期推移

(百万円)



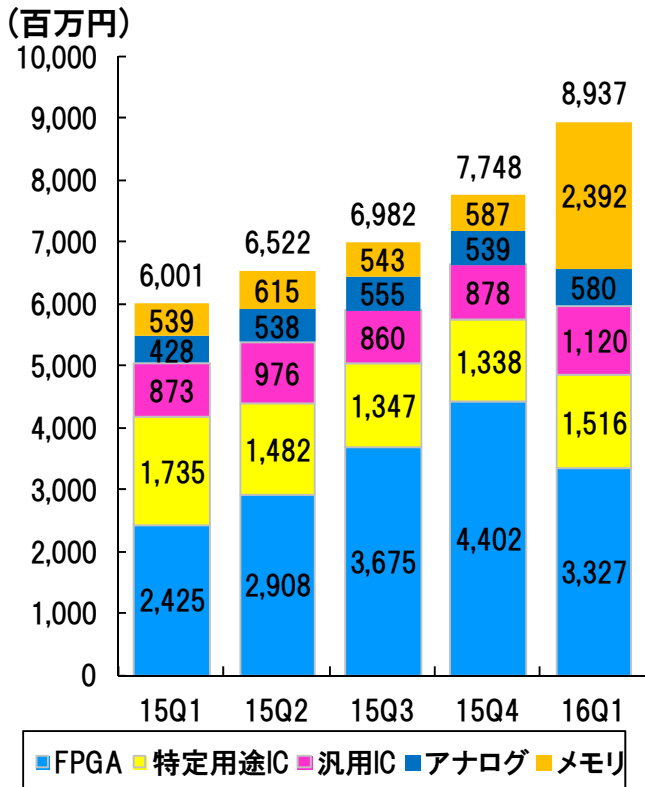
(百万円)



事業別の実績



半導体事業の状況（製品別）

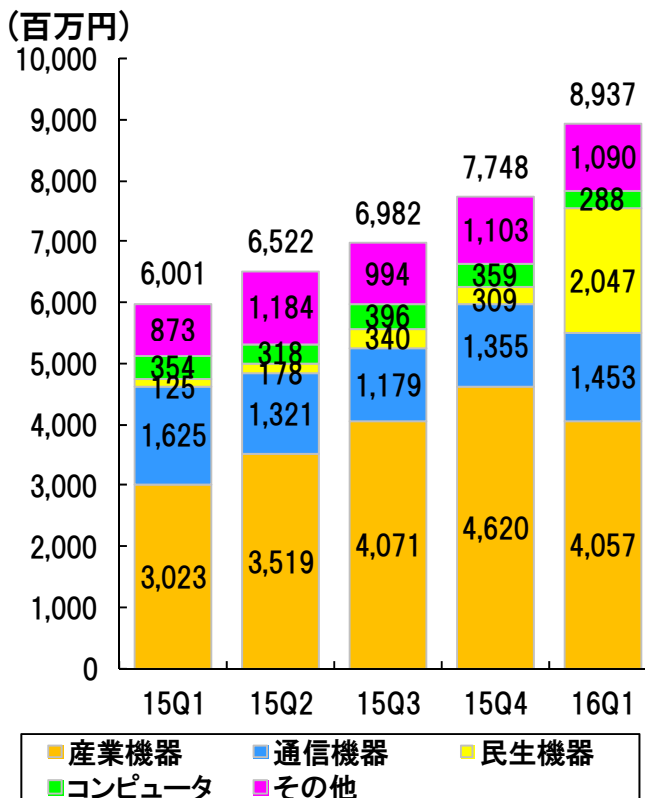


四半期業績の推移

- FPGA**
ファクトリーオートメーション、医療機器向けが減少
- 特定用途IC**
ブロードバンド通信機器向けが堅調
- 汎用IC**
オフィス機器向けが増加
- アナログ**
通信機器向けが増加
- メモリ**
民生機器向けが大幅に増加



半導体事業の状況（用途別）



四半期業績の推移

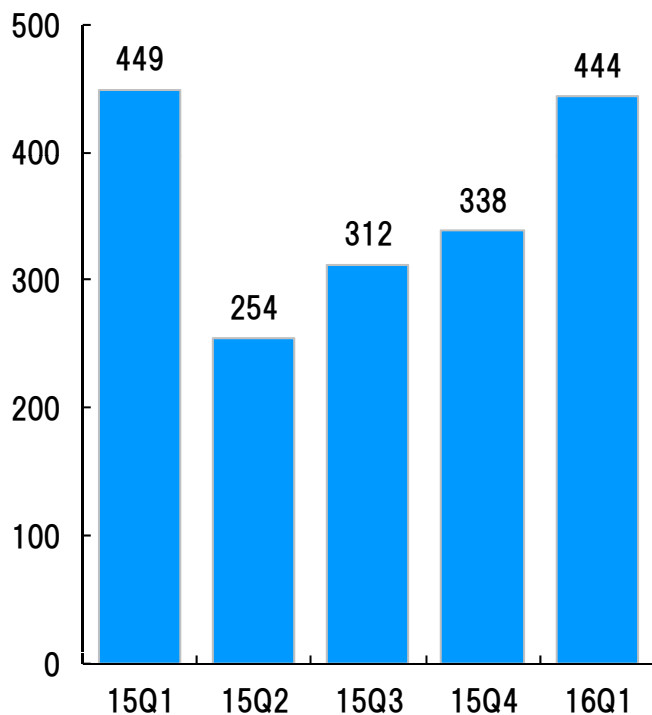
- 産業機器**
オフィス機器向けは堅調に推移するも、ファクトリーオートメーション、医療機器向けが減少
- 通信機器**
ブロードバンド通信機器向けが堅調
- 民生機器**
海外メーカー向けが大幅に増加

※ 2015年度の「その他」の項目に「産業機器」の数字が一部入っており、今回修正を行っております



デザインサービス事業の状況

(百万円)



四半期業績の推移

- 産業機器、航空/宇宙分野、医療機器向けの案件が堅調



SOLUTION SUPPLIER
PALTEK

事業の進捗状況

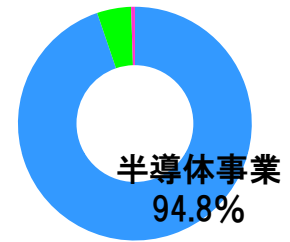
■ 事業の方向性

- ・ 安定的に収益を確保する事業を目指す

■ 戦略

- ・ FPGA市場の拡大
- ・ IoT市場への新たな取り組み
- ・ 成長市場への注力：
産業機器、医療機器、通信機器、放送機器、車載機器
- ・ デマンド・クリエーションの強化
- ・ 付加価値高い製品の開発と開拓

2016年12月期第1四半期
売上構成比



■ FPGA市場の拡大

- ・ 新規顧客でのデザイン活動の強化
- ・ 新規中小顧客の拡大、パートナーとの連携強化

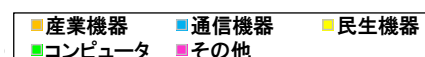
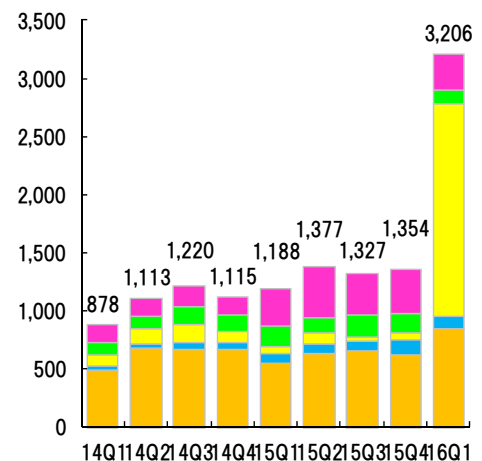


■ FPGAに次ぐ第2の柱となる製品の拡大

- ・ 市場変動により増減する民生機器向けが大幅に増加

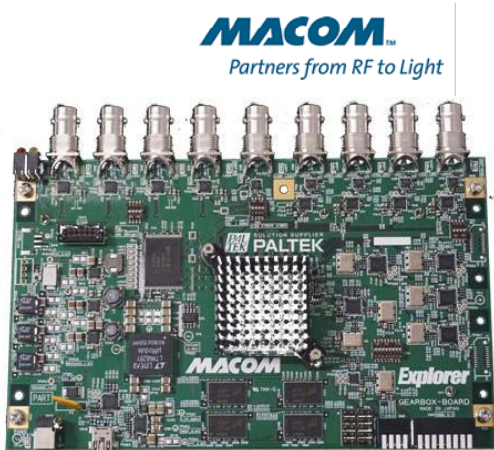


第2の柱となる主要4製品の売上推移



■ SDIインターフェースの伝送レート変換ボード「GearBoxボード」の開発

- 4K映像の非圧縮伝送が可能な12G-SDIの変換を実現
- 放送機器、医療機器、セキュリティ機器向けにSDIインターフェース用半導体やFPGAなどの拡販に活用



MACOM
Partners from RF to Light

XILINX

映像入力元が12G-SDIに対応していない場合



映像出力先が12G-SDIに対応していない場合



■ 高度道路交通システム(ITS)向け赤外線センサ製品の販売開始

- ビデオ交通検知・監視システム向け赤外線センサ
- ビデオ交通監視システムで使用されている可視光カメラでは、夜間や直射日光、照り返し、影などの影響で車両・歩行者の検知が困難
⇒ **高性能な赤外線センサを活用し、課題を解決**



インテリジェント赤外線
交通センサ

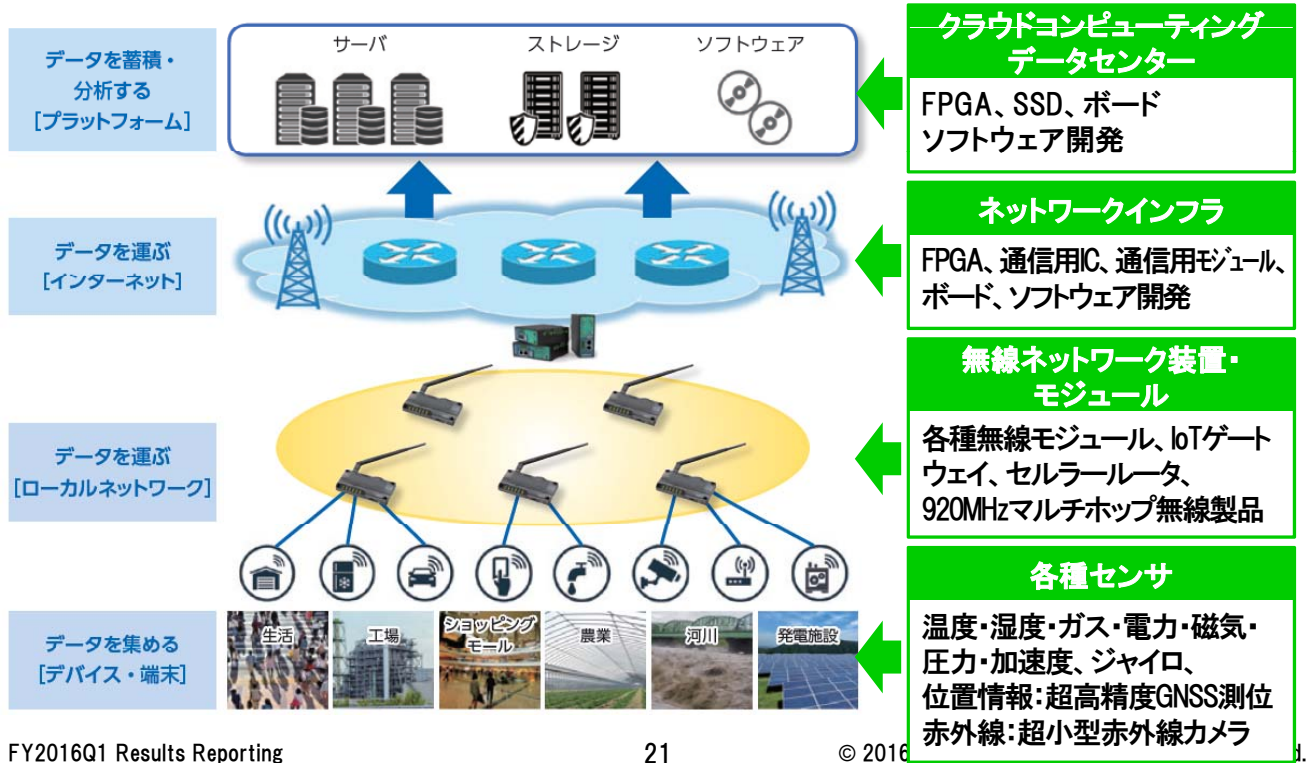


ビデオ検知管理ソフトウェア



自動車交通検知の様子

IoTインフラ向けに端末からデータセンターまで製品ラインを拡充



■ 第5回 IoT/M2M 展 春に出展に出展

- 開催日 : 2016年5月11日(水)~5月13日(金)
- 場所 : 東京ビックサイト (ブース:西 13-9)

■ 展示テーマ

- センサからクラウドまで IoTに関するソリューションを提案

■ 主な展示品目

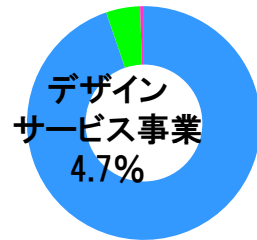
- 超小型遠赤外線センサモジュールを用いた熱感知、サーマルイメージング
- 産業用の高精度、小型の6軸ジャイロセンサを使用した振動、揺れ、加減速等のモニタリング
- 920MHz帯の特定小電力無線マルチホップ("SmartHop®")を用いた通信
- IoTゲートウェイ、セルラールータ、モデム

上記4製品により、赤外線カメラやジャイロセンサでセンシングした情報を、920MHz帯無線マルチホップを用いて通信し、IoTゲートウェイを介してクラウドサーバへ送信するデモ展示を実施

■ 事業の方向性

- 日本メーカーが得意とする医療、放送等の産業分野、通信分野の開発をサポートし、付加価値の高い製品・サービスを提供

2016年12月期第1四半期
売上構成比



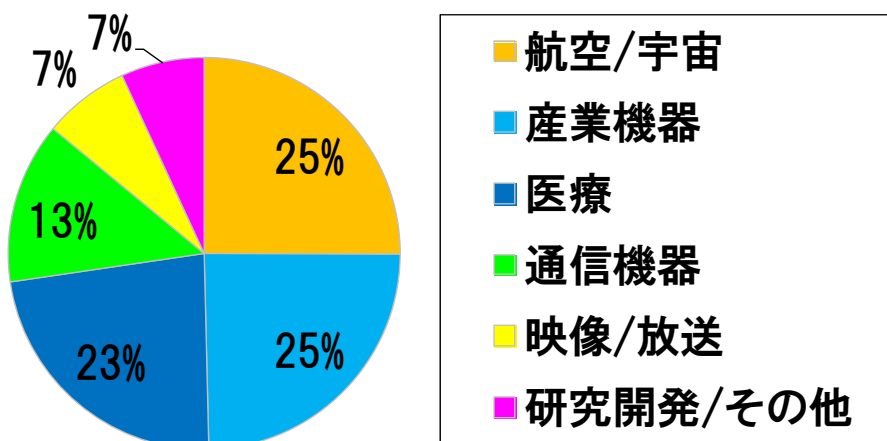
■ 戦略

- 設計受託の強化
- ODMの更なる展開
- 自社製品開発・販売
- 開発環境販売・サポート
(ツール、評価ボードの販売等)



- 航空/宇宙分野、監視カメラやファクトリーオートメーション等の産業機器、医療機器向けが堅調に推移
- ODM/EMSの比率は約50%

2016年第1四半期での用途別売上構成



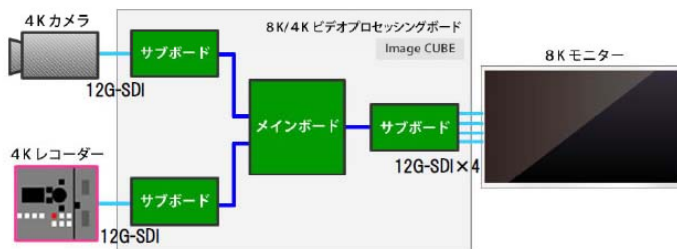


自社製品の開発

- 12G-SDIインターフェースに対応した8K/4Kビデオプロセッシングボード「Image CUBE」を開発
- 今後の8K/4Kの普及により求められる映像伝送インターフェースの高速化に対応
- 活用事例
 - 4K映像から8K映像への変換(アップコンバート)
 - 8K映像に文字情報や他の映像を合成



システム構成例



活用例

4Kから8Kのアップコンバート



世界最大の放送機器展 NAB Show 2016(米国 ラスベガス)のメイコム社ブースで「Image CUBE」を展示

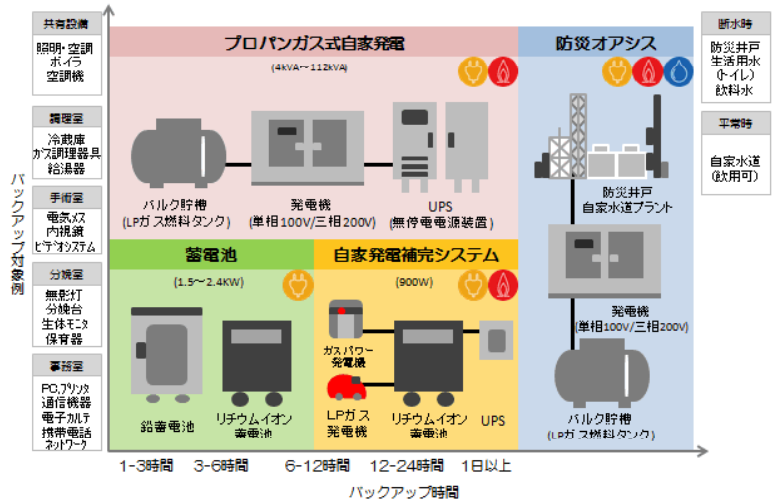


■ 事業の方向性

- ・ スマートエネルギーソリューションの開拓・販売を通じて、エネルギー面からの持続可能な社会構築に貢献する

■ 戦略

- ・ 長時間(72時間以上)提供可能な病院向け停電対策システムの構築および販売
- ・ ニーズに基づいた新製品ソリューションの構築



- 介護施設の地域貢献を促進する停電対策システムを提供
- 社会福祉法改正による「地域における公益的な取組の実施する責務」に対応

【背景】

- 福祉ニーズの多様化・複雑化により、高い公益性と非営利性を備えた社会福祉法人の重要性が増大
- この変化に対応するため、2016年3月31日に改正社会福祉法が成立
- 社会福祉法人制度改革の一つとして「地域における公益的な取組の実施する責務」を義務付け

【PALTEKが提供するもの】

- プロパンガス式自家発電機を活用した停電対策システム
- 施設や地域住民も巻き込んだ防災の仕組み



プロパンガス式自家発電機を活用した炊き出しの様子

2

2016年12月期 業績予想

2016年12月期 業績見通しについて

急速な円高進行により、仕入値引ドル建値引債権の評価額が減少したため、第2四半期(累計)の営業利益が大きく減少

■ 第2四半期(累計)の見通し

- 売上高 : メモリ製品が牽引し増加
- 営業利益: 急速な円高進行により、仕入値引ドル建債権の評価額の減少等の為替の影響が△375百万円発生すると見込むことで売上原価が増加し、営業利益は大きく減少

■ 通期の見通し

- 第2四半期(累計)における業績変動を加味し、業績見通しを修正

(百万円)	2016年12月期業績予想 当初予想(2/9)			2016年12月期業績予想 修正予想(5/9)			上期増減		通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	14,600	15,400	30,000	16,550	15,450	32,000	1,950	13.4%	2,000	6.7%
売上総利益	2,170	2,355	4,525	1,715	2,360	4,075	△455	△21.0%	△450	△9.9%
売上総利益率	14.9%	15.3%	15.1%	10.4%	15.3%	12.7%	—	—	—	—
販管費	1,650	1,675	3,325	1,575	1,675	3,250	△75	△4.5%	△75	△2.3%
営業利益	520	680	1,200	140	685	825	△380	△73.1%	△375	△31.3%
営業利益率	3.6%	4.4%	4.0%	0.8%	4.4%	2.6%	—	—	—	—
経常利益	470	630	1,100	145	635	780	△325	△69.1%	△320	△29.1%
当期純利益	300	400	700	82	403	485	△218	△72.7%	△215	△30.7%

為替変動による業績見通しへの影響

- 2016年2月9日に発表した業績予想においては、為替レートを1ドル当たり120円と想定
- 急速な円高進行により、仕入値引ドル建債権の評価額の減少等が発生し、売上原価を押し上げ、利益が減少

【為替変動による影響見込額】

第1四半期: △126百万円 が発生

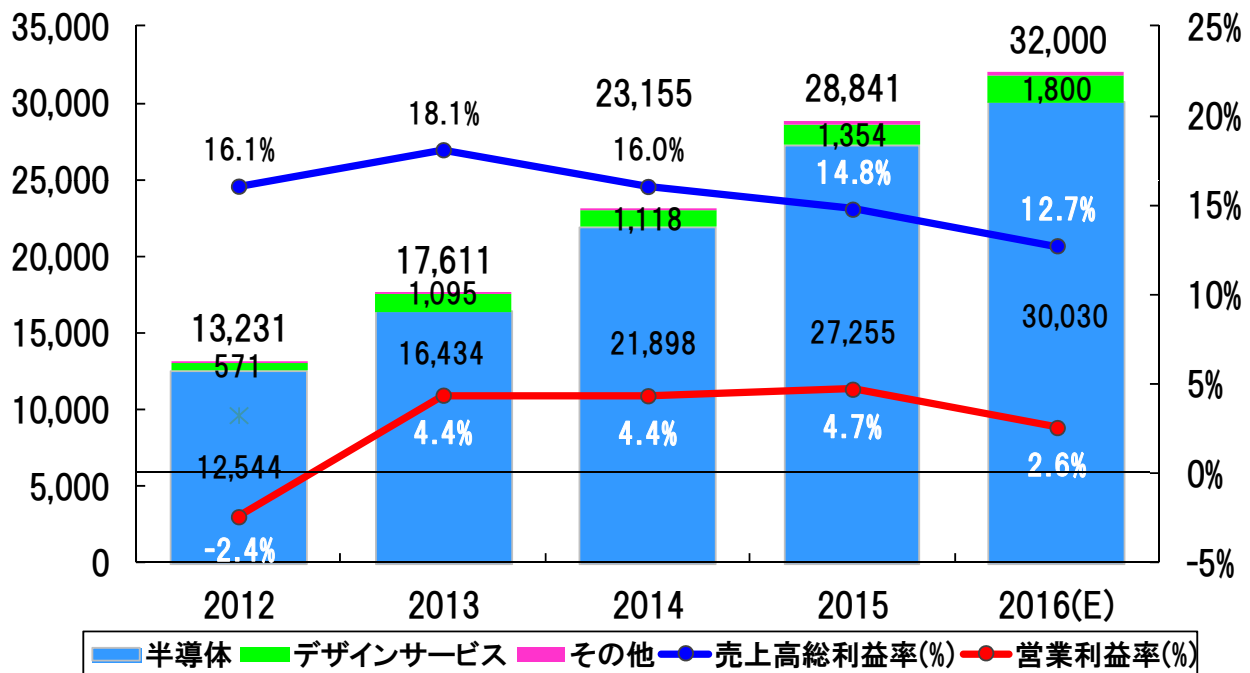
第2四半期: △249百万円 が発生すると見込む
(算出のために使用した為替レート: 109円)

第2四半期(累計): △375百万円

- なお、第3四半期以降の業績見通しについては、為替変動の影響を見込むことが困難なため、為替変動による影響を加味していない

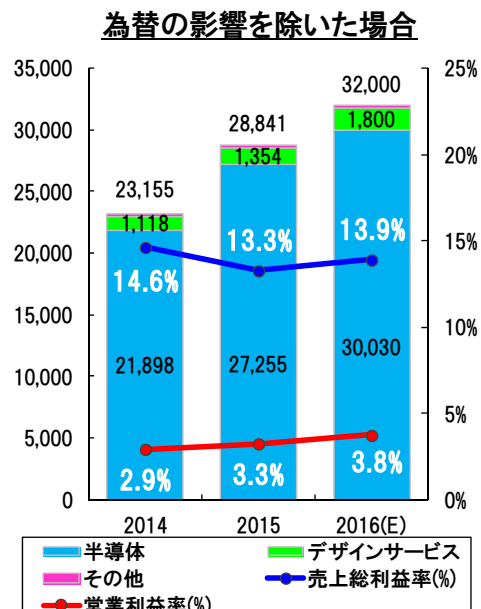
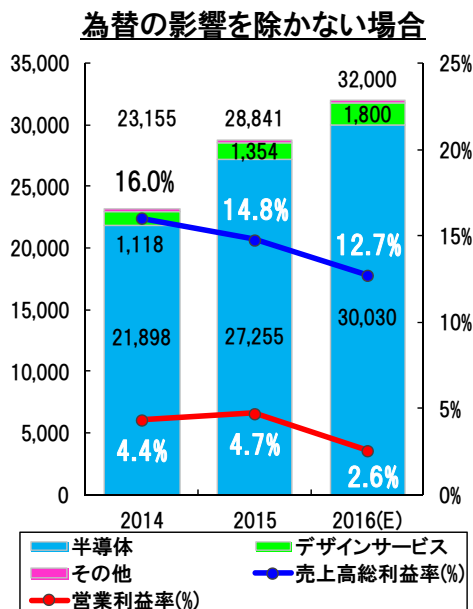
業績見通しの推移(連結)

(単位:百万円)



為替の影響を除いた場合の業績予想比較

- 2014年、2015年では、円安進行により仕入値引ドル建債権の評価額が増加し、原価を押し下げたが、2016年では同評価額が減少し、原価を押し上げている
- この評価額の増減を含む為替の利益に与える影響を排除した場合、2016年12月期については実力値ベースでは増益となる



以下の担当までお問い合わせ下さい。

柴崎 由記（総務グループ IR担当）

株式会社PALTEK

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL :045-477-2016

FAX :045-477-2012

E-mail :ir@paltek.co.jp

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

参 考 資 料

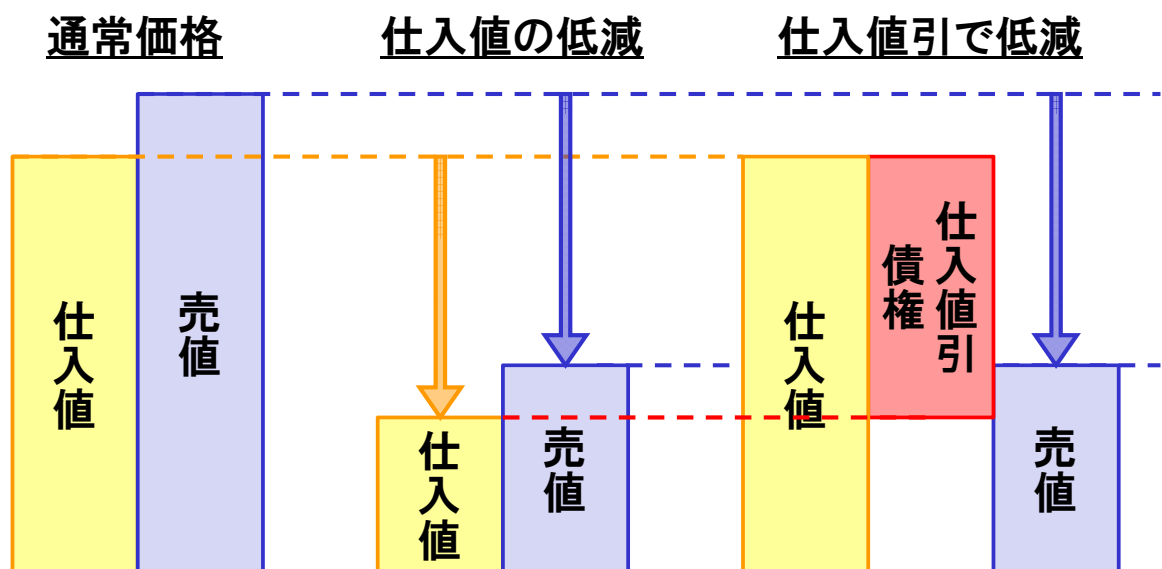


2016年12月期 製品別業績予想

(百万円)	2016年12月期業績予想 当初予想(2/9)			2016年12月期業績予想 修正予想(5/9)			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
半導体	13,780	14,320	28,100	15,640	14,390	30,030	1,930	6.9%
FPGA	6,800	6,850	13,650	6,500	7,150	13,650	—	—
特定用途IC	2,950	2,600	5,550	2,860	2,470	5,330	△220	△4.0%
汎用IC	1,780	2,020	3,800	2,000	1,700	3,700	△100	△2.6%
アナログ	1,200	1,500	2,700	1,150	1,550	2,700	—	—
メモリ	1,050	1,350	2,400	3,130	1,520	4,650	2,250	93.8%
デザインサービス	700	900	1,600	840	960	1,800	200	12.5%
その他	120	180	300	70	100	170	△130	△43.3%
売上高合計	14,600	15,400	30,000	16,550	15,450	32,000	2,000	6.7%
営業利益	520	680	1,200	140	685	825	△375	△31.3%

- 仕入値引債権とは
- 仕入値引債権の評価額変動リスク
- 調達在庫のレート変動リスク
- 決済時ドル調達レート変動リスク

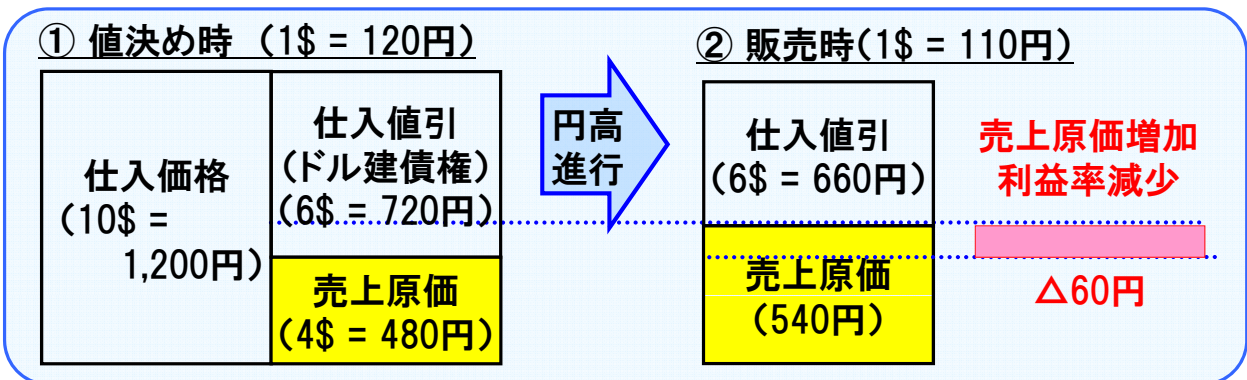
- 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
- その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
- その実現方法には、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」の2パターンがある



仕入値引債権の評価額変動リスク

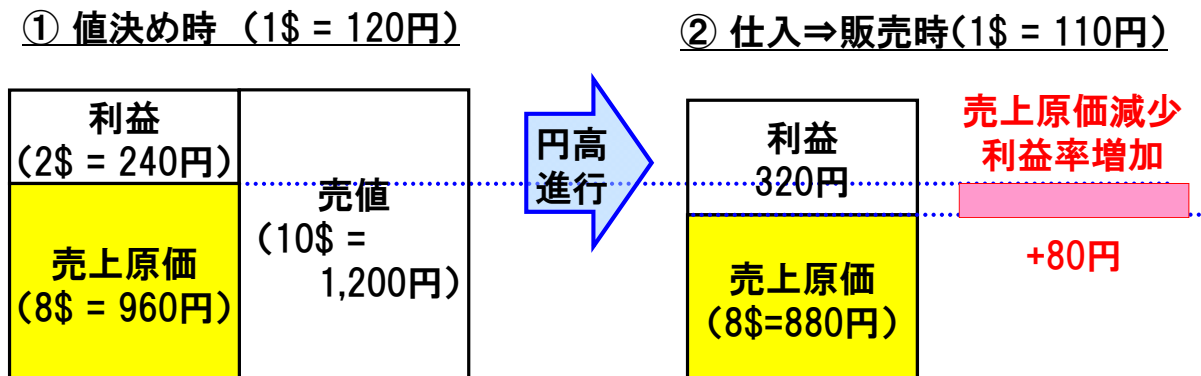
- ① 値決め : 量産案件では、標準仕入価格を下回る特別価格を適用することがある
- ② 販売 : 販売時に仕入値引(ドル建債権)を受け取る。値決め時よりも円高が進行している場合、仕入値引のドル建債権の評価額が減少

売上原価増加 → 利益率減少

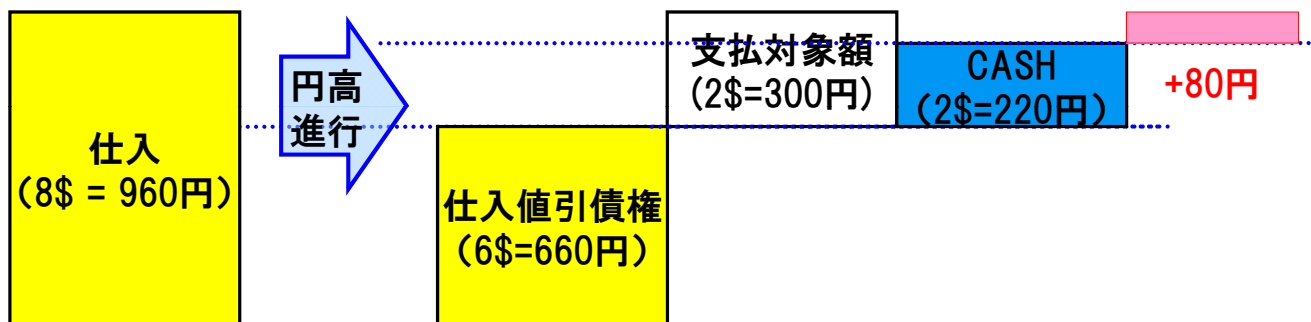


調達在庫のレート変動リスク

売上原価減少 → 利益率増加



① 仕入時 (1\$ = 120円) ② 販売・支払時 (1\$ = 110円)



開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例:通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売
その他	上記のカテゴリに属さないソリューション